

白山市文化施設館報

白山ミュージアム



隅谷正峯作太刀（昭和45年製作）

人間国宝 隅谷正峯と日本刀

大正十年一月に生まれ、昭和、平成と活躍された郷土の刀剣作家隅谷正峯が、今年、生誕百年を迎えます。

隅谷正峯は古刀の再現、特に鎌倉期、備前伝一文字派に代表される「重花丁子」の刃文に魅了され、その華麗なる刃文や地鉄をその生涯に渡って探究されました。

研鑽を重ね、正峯は八重桜の花びらにもなぞらえられる華麗な「隅谷丁子」と呼ばれる独創的な刃文を若くして確立されました。

昭和五十六年に重要無形文化財保持者（人間国宝）として認定された後もその情熱は衰えることなく、生涯にわたり日本刀の素材となる地鉄造りに挑戦されました。

今季の特別展では、自身彫りによる大身槍日本号と小竜景光の写しをはじめとする代表作のほか、小品として正倉院刀子の復元作などを紹介し、業績を顕彰するとともに、その偉業を後世に伝えようとするものです。

鎌倉時代の作や一門の作品も同時に展示いたしますので、ご鑑賞いただき、鎌倉期に思いを馳せていただければ幸いです。

（特別展の詳細は、七頁）

contents

- | | | | |
|---------------------------|---|-------------------------|---|
| ■ 人間国宝 隅谷正峯と日本刀 …… | 1 | ■ 呉竹文庫 30年を迎えて …… | 5 |
| ■ 梶野玄山 一花鳥山水画の世界 …… | 2 | ■ 『宇野主水日記』考 …… | 6 |
| ■ 北前船の遺産 一白山市に残る夢とロマン …… | 3 | ■ 令和3年度 前期行事予定等 …… | 7 |
| ■ 千代と哥川 一俳人がつなく本吉湊と三国湊 …… | 4 | ■ 令和3年度 文化施設展示・行事予定等 …… | 8 |

白山市立博物館企画展

梶野玄山 — 花鳥山水画の世界 —

会期 令和二年六月二十六日～八月二十三日

梶野玄山は、明治から昭和にかけて活躍した白山市出身の画家です。

沢で四条派の画家垣内有隣に師事し、

今回は、玄山作品の中から孔雀画、

都では鈴木松年の門下となり、翌

山水画を中心に、玄山と同時代に活躍した白山市出身画家の作品と併せて展示しました。

三十二年より七年間、真宗京都中学校絵画科で教鞭をとりながら画業に打ち込み、全国絵画共進会展等で受賞を重ね、画家として確かな地位を築いていきます。その後は画業に専念し、明治四十四年久邇宮家の御下命により画を描いて以来、多くの

明治元年に現在の白山市西新町の染物業の家に生まれた梶野玄山は、

皇族に孔雀画や山水画を献上しています。中でも大正十三年昭和天皇ご成婚にあたり依頼された孔雀画は皇室の御物にも選ばれました。生涯に描いた孔雀画は百点余に及び、その送り先は孔雀画納品芳名録に残されています。その後郷里に戻ることに

幼少期から祖父より絵画の手ほどきを受けました。小学校卒業後には金

く昭和十四年京都にて生涯を閉じました。今回、掛軸、屏風、関係資料の中から玄山の繊細で華麗な



老松孔雀図



溪山無尽図

細で華麗な

貴重な作品をご出展賜りました皆様に感謝申し上げます。

(白山市立博物館 小森)

白山市立博物館 企画展
北前船の遺産 — 白山市に残る夢とロマン —

会期 令和二年十月十六日～十一月二十九日



北前船「小新造図」

文化庁の認定する日本遺産「荒波

を越えた男たちの夢が紡いだ異空間

「北前船寄港地・船主集落」に、

令和二年六月当市が追加されたこと

にあわせ、松任地域の海岸線寄りの神

社に奉納されている船図（船絵 船図

絵馬）等の展示を行いました。

北前船は、江戸時代から明治中頃

にかけて蝦夷地（現在の北海道）と

大阪方面の海運に従事した不定期の

廻船で、衣類・日用雑貨・砂糖・塩など

を積み日本海沿線を北上し、また、

南下するときは、北米や木材海産物・

乾鰯などを積み、沿岸各地へ運びまし

た。当市では、美川地域の本吉湊が

江戸期から明治期、寄港地として

繁栄し、独特の文化・伝統が継承され

ており、また、松任地域では相河浦が

着荷港として使われていました。

今回展示の船図は、江戸時代から

明治中頃にかけて運行された北前船

など、船の構造上、外航に耐久性が

なく、海難事故が多かったことにより、

航海の安全祈願や、無事航海を終えた

ことに対する感謝を込め、関係する

神社に奉納されたもので、三月から

五月の春の奉納は「航海の安全祈願」、

九月から十一月の秋の奉納は「祈願

成就の御礼」と言われています。

今回は、船図十一点を展示し、その

中で、「小新造図」（徳光八坂神社蔵）や

「両徳丸図」（石立諏訪神社蔵）などは、

北前船が描かれており、絵師は、大阪

の船絵馬専門の絵馬師「絵馬藤」の作

で、大変貴重なものだと思います。

また、「石立村漁舟海岸の図」（石立

諏訪神社蔵）や「漁舟団図」（笠間

神社蔵）、「漁船図」（倉部八幡神社

蔵）などは、当時この辺りでは鯛網漁

が盛んで、複数の鯛網漁船が帰港する

際の大漁を喜ぶ姿が描かれており、

絵の表情など面白いものが残ってい

ます。

併せて、北前船寄港地ゆかりの

「引札」を展示しました。

「引札」とは、商店の広告チラシの

ことで江戸時代中頃からつくられ、

明治に入って急速に普及しました。

カラフルな色使いで、おめでたい図柄や

華やかな錦絵、宝船などの縁起物など

が描かれ、大変目を引きます。

発行された地域は、北前船寄港地

ゆかりの場所が多く、当時の人々の各

地での交流や、船により荒波を越えて

運ばれてきた様子などに思いを馳せる

ことができます。

通常は、地元神社から外に出る事

ない絵図等が、当館に集結し、来館者

より「壮観な眺めだ」とのお声もいた

できました。また、普段目にする事の

できない、北前船ゆかりの作品などに

ふれる貴重な機会となりました。

本展の開催にあたり、ご協力いた

だきました関係各位に厚く御礼申し

上げます。

（白山市立博物館 村西）



鯛網漁船「石立村漁舟海岸の図」

日本遺産認定記念

千代と哥川 — 俳人がつなぐ本吉湊と三国湊 —

会期 令和三年一月十三日～三月十五日

白山市美川地区は明治まで北前船

の寄港地「本吉湊」として栄え、「お
かえり祭り」「御酒」など独自の文

化が花開きました。俳諧の分野でも、

北潟屋弥左衛門（俳号大睡）が本吉
を地盤として活躍、幼少の千代女に

俳諧の手解きをした人物として知ら
れています。

同じく北前船の寄港地として栄え

た、隣の越前国三国（現在の福井県
坂井市）では女流俳人の哥川が有名

です。哥川は千代女と親交が深く、

その交流は晩年まで変わることなく
続きました。

令和二年六月、美川地区の本吉湊

関連資産九件が日本遺産に追加認定
されたことを記念し、当館常設展示

室で開催しました。

哥川（一七〇〇？—一七七六）

江戸中期の三国湊の遊里の遊女、
俳人。「哥川」は俳号で、妓名は「泊

瀬川（長谷川）」、本名は吟（ぎん）。

一説には吉野（奈良県南部）の出自
とも伝えられています。

哥川は、三国出村の「荒町屋」の
抱え遊女でしたが、永正寺住職で美

濃派俳人の永言（俳号・巴浪）から

俳諧と書を学びました。教養豊かで、
能書家として知られています。

哥川は千代女とは若い頃から親交

があり、その関係は晩年まで続きま
した。千代女が没する前冬、哥川は

病床の千代女を見舞いに、遠路三国
から松任を訪ねています。

大睡（一六八四—一七七五）

江戸中期の加賀国本吉の俳人。

大睡は俳号で、通称は北潟屋弥左衛

門。最初は帆吹、次に半睡と号して
います。

本吉の町方肝煎（町役人）も勤め
た大睡は、俳諧については最初に美

濃派各務支考、後に伊勢派中川乙由
と交流し、若椎（若水）とともに本

吉連中（俳壇）の指導的立場にいた
と考えられます。千代女の幼少期に

俳諧を手ほどきした人物としても有
名です。

大睡と千代女はいわゆる師弟関係
にありましたが、その親交は長く深

く続きました。大睡宛の千代女書簡
では、大睡のことを親しみを込めて

「お前様」と呼んでいたことが知ら
れています。

今回の企画展示では、哥川と千代

女の合作軸や俳書などを展示し、千
代女と縁がある俳人たちを通して、

三国と本吉、北前船寄港地として栄
えた二湊を紹介しました。

（千代女の里俳句館 山下）



千代女と哥川の合作掛軸



企画展示写真

呉竹文庫 三十年を迎えて

令和二年度は、呉竹文庫が新しく公開された年から三十年と記念の年でした。

これまで主に行ってきた展示は、設立者熊田源太郎の業績・人柄などをご理解いただけるよう美術品・古文書・書籍などの所蔵品を中心として展示してきました。

今回三十周年を記念し、六月三十日（火）～九月二十七日（日）に開催の夏季展 光の中「絵と言葉いろいろ」と題して、当館で絵手紙教室を開催している森秀一さんの作品を展示しました。当館で、所蔵品以外の絵を中心にした展示は初めてです。第一部と二部に分け一部作品を入れ替えました。第一部では、コロナ感染拡大でこれまでと違った生活様式で我慢している方が多い時期に、元気になって欲しいという気持ちを込

めて、人に良いと書いて「食」となる漢字をメインとしました。真っ赤なトマト、みずみずしいキュウリ、おいしそうな絵が並びます。



第二部では、海外に行くことのできない時節でしたので異国の雰囲気味わっていたいただきたいと思ひ森さんが海外に行かれた時の風景を中心に展示しました。

森さんには作品だけでなく作品のタイトルや説明なども展示をしながら

ら、描いていただきました。それ自体が作品のような出来栄で、飾られた展示室はいつもとは違った雰囲気になりました。



お借りした船筆筒

なく、白山在住の方から資料をお借りし「北前船ゆかりの道具」展を開催しました。

北前船で使用されていた船筆筒や遠眼鏡、船磁石などは、航海技術の発達していない当時、道具としてはかりでなく、乗組員達の命を助ける命綱でもありました。

また船筆筒は、海に投げ出しても水が入らない密封性と誰でも開けることが出来ないように緻密で複雑なカギが必要とされるため、北前船で繁栄していくと共に精巧な技術で作られました。利便性だけでなく船頭のステイタスとして豪華な金具で彩られ、北前船の花形ともいえる逸品です。

お蔭様でどちらの展示もこれまで呉竹文庫のことを知らなかった多くの方にご来館いただける機会となりました。ご協力を賜りました皆様にご来館いただきありがとうございます。

（石川ルーツ交流館 早松）

十月十六日から令和三年二月二十八日まで、日本遺産「北前船寄港地・船主集落」～荒波を乗り越えた男たちの夢が紡いだ異空間～に白山市美川地区・湊地区が追加認定され、当館所蔵の資料が構成文化財の一つとして認定されました。今回記念となる展示では、これまで当館で北前船関係の展示を行ってきたものとは違い、所蔵資料では

『宇野主水日記』考

本願寺坊官宇野主水は顕如の祐筆として側近くに仕え、天正八年(一五八〇)から始まる「鷲森日記」「貝塚御座所日記」「雑記」と同十四年(一五八五)までの政治史や災害などを記録に残しています。これを『宇野主水日記』といいます。

同日記の同十年三月五日の条に「加州山内モ彼一揆等取出テ及一戦。則キリマケテ三月一日落居云々。生捕数百人ハタモノニアゲラルルト云々」と語ります。『信長公記』三月九日条には「加賀国白山の麓ふうげと云う所に、卒度(そつと)足懸りを拵、柴田修理人数三百ばかり入置き、近辺知行の所務納置き候処、賀州一揆手合わせとして蜂起せしめ、ふとうげへ取懸け攻破り、入置き候者悉く討果し候。爰に国の警固として佐久間玄蕃を残し置き候。則、玄

蕃ふとうげへ責上り乗帰し、一揆共数多切捨て」と記されています。いずれも加賀一揆最後の組織的戦いを記録した史料です。この時期、織田信長は甲斐武田を打倒しています。一方大坂本願寺を退城したあと、父顕如から義絶されていた新門教如は織田の追及をかわし「諸国秘廻」しています。美濃越前に同九年の冬を越し、雪解けを待たず越中五箇山を目指して加賀に入ったと伝承されます(吉野谷願慶寺)。情況を見れば加賀山内衆が敢然戦いを挑み、越中では富山城を責め落とすといった信長の甲斐攻めを掣肘する行動に出ていました。これらの事件は、五箇山に退いていた城端善徳寺を頼った教如の指導に見えます。

天正十三年天下人となった羽柴秀吉の「越中佐々攻め」が始まります。

本願寺は鷲森から貝塚、そして秀吉の命によって大坂天満へと移転します。顕如・教如父子が移るのは同年八月三十一日、翌閏八月朔日には教如は秀吉の戦勝祝いと本願寺移転の「御礼」のため「北國下向」します。「貝塚御座所日記」によれば「閏八月朔日 新門様北國御陣御見廻トシテ、俄御下向。越前サカヒ、大聖寺ニテ秀吉へ御礼御申アリテ、ソレヨリ越前加賀両国御一見。御門徒馳走不及申。ソレモ秀吉より御異見ナル故也」といいます。

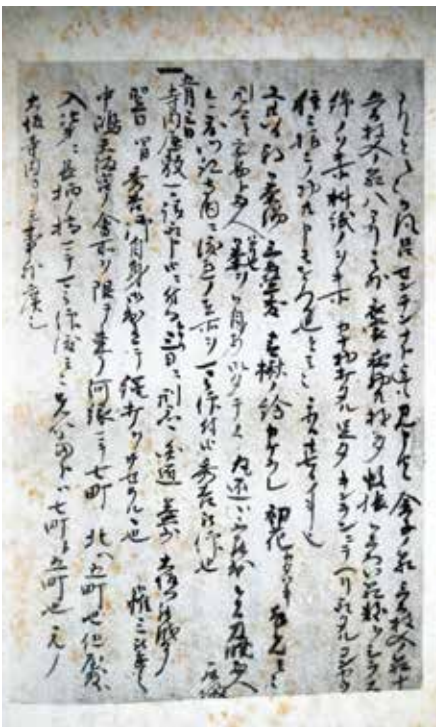
三年前まで本願寺領国であった加賀の国に至り、新門教如はいまその地を踏みしめています。

秀吉との対面は大聖寺城であったろうと思います。

秀吉は天下

人としての地位を着々と固めていた時期です。城内で目通りし、誰が主人であるかを加賀門徒に周知させたであろう秀吉の姿が目には浮かびます。教如の胸中はいかばかりであったろうかと推測します。対面を終えた教如は越前加賀両国の門徒を訪ね、ともにした苦労を語りあつたろうと思います。同日記は「ソレモ秀吉より御異見」であるとしています。ともあれ、加賀門徒の多くは教如に従いの東門徒になつていったようです。

(鳥越一向一揆歴史館 西出)



宇野主水日記



中川一政「薔薇」1982年

松任中川一政記念美術館
特別企画 所蔵全作品公開展 V期
「百花撩乱」―薔薇作品を中心に―

令和3年3月6日(土)～8月29日(日)

当美術館のコレクションの全容を展観する特別企画展の最終回として、「百花撩乱」と題し、薔薇や向日葵、鉄線など花を描いた作品を中心に公開します。昨年春に特別企画のI期展として開催した同展は、新型コロナウイルス感染症対策による臨時休館のため十二日間のみ公開となったため、一部作品を変更して再開催するものです。収蔵数が多く、普段紹介しきれない「薔薇」も多数公開され、必見です。

呉竹文庫春季展

「歌を綴じる」―季節の花を添えて―

令和3年3月16日(火)～6月6日(日)

創設者である熊田源太郎が愛した和歌の中から月刊誌『心の花』、『すみれ』を中心に季節の花を主題にした掛け軸を展示いたします。詠まれた和歌だけでなく、雑誌の表紙の美しさもご覧ください。

石川ルーツ交流館企画展

「梅と桜図」

令和3年3月20日(土)～

5月9日(日)

植物細密画家金栄健介さんが描いた全国でも兼六園でしか見られない兼六園菊桜をはじめ、様々な種類の梅と桜図を展示いたします。



千代女の里俳句館企画展

俳句と写真展

令和3年6月12日(土)～8月8日(日)

毎年実施している恒例の展覧会で、今回は「夏兆す」をテーマに、白山市俳句協会会員による写真付俳句作品を展示します。

この他、松任写真同好会会員が撮影した写真へ投句できるコーナーもあり、誰でも自由に参加できます。本展覧会については、観覧無料です。

白山市立博物館 特別展 生誕100年記念

人間国宝 刀剣作家 隅谷正峯

― 思いは鎌倉期に漂いて ―

令和3年4月24日(土)～6月6日(日)

※会期中無休

「古名刀の再現」をテーマに生涯をかけて追い求め、作り上げた隅谷作品を展示します。

入館料／一般500円、高校生

200円、中学生以下無料

白山市立博物館 特別展記念講演会

「師・隅谷正峯を語る」

令和3年5月22日(土)

13時30分～15時

講 師／刀剣作家 宮入法廣氏
ところ／松任学習センタープララ
定 員／200人(抽選)

申込方法／葉書で住所、氏名、年齢、電話番号を知らせてください。

(一人一枚の申し込み)

※当選者には5月12日ごろ「入場整理券」を発送予定です。

※当選発表は入場整理券の発送をもって代えさせていただきます。

申込締切／4月30日(金)

(当日消印有効)

申込先／白山市立博物館

〒920-0871

白山市西新町168-1

令和3年度 展示・行事予定

事業計画	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
白山市立博物館 275-8922	特別展「生涯100年記念 人間国宝 刀剣作家 隅谷正肇 - 思いは鎌倉期に漂いて -」 4/24～6/6 ◆講演会等 5/22講演会「師・隅谷正肇を語る」 ◆講座 4/15音楽祭コンサート ◆鉄道模型運行		企画展「Stones-白山手取川 ジオパークの石たち-」 7/9～9/5		企画展「近代の洋画展(仮称)」 10/15～11/14		スポット展示「石川中央都市圏考古資料展」 11/26～12/26		企画展「くらしと道具のうつりかわり」 1/21～3/6		11/13-27-12/11古文書講座 3/6刀の手入れ教室 ④3/20				
千代女の里俳句館 276-0819	立夏展示替		企画展「俳句と写真展」 6/12～8/8		立秋展示替		企画展「千代女の交友録」 9/11～10/24		俳句協会 会員展 10/30～11/14		千代女-茶交流 パネル展 12/11～12/26				
4/22音楽祭コンサート 春期俳句ポスト選句 4/24～市民俳句教室10回開催 4/25音楽祭茶会 5/8～少女俳句塾9回開催		7/4七夕茶会 夏期俳句ポスト選句 文学散歩		8/4夏休み工作教室		秋期俳句ポスト選句 10/9千代女全国俳句大会		12/4俳句講座		冬期俳句ポスト選句 俳句ポストパネル展		11/27千代女少女全国俳句大会表彰式			
松任中川一政記念美術館 275-7532	2020-21特別企画 所蔵全作品公開展 V期「百花撩乱」前期 3/6～5/30 - 蕃薇作品を中心に -		V期「百花撩乱」後期 6/1～8/29 - 蕃薇作品を中心に -		臨時休館 特別展 松任中川一政記念美術館開館35周年記念「没後30年 中川一政展 二つの中川一政美術館交流展」(仮称) 9/4～11/28		臨時休館 2021後期展「中川一政 書と陶芸の世界 - 自在の境地にあそぶ -」 12/15～2/27		2022春季テーマ展(内容未定) 3/1～						
4/22ミニコンサート 美術館講座「中川一政文集を読む」		①6/12		7/21～8/1 第27回花を描こう絵画展(市民工房うるわし) 7/25 夏休みキッズプログラム「一政に挑戦! 油絵体験」		②8/7		11/28 特別展美術館句会 9/4 特別展オープニングコンサート/特別展会期中講演会開催		③10/2		10/18 0歳からの家族鑑賞会「ミュージアムスタート」 ④12/11			
⑤2/12															
石川ルーツ交流館 278-7111	企画展「梅と桜図」 3/20～5/9		6/12「手取川の氾濫 昭和9年の記録 今語る」 6/20篠笛コンサート		7月下旬 ペットボトルでペンケースを作ろう 7/4 山中節を楽しむ会 7月下旬 ペットボトルを使ってグライダーを作ろう		秋頃 ヨシ笛コンサート		企画展「本吉の北前船」 10/21～11/28						
呉竹文庫 278-6252	「歌を綴じる」展 3/16～6/6		「呉竹文庫夏季展」 6/22～10/11		「呉竹文庫秋冬展」 10/26～2/20		「呉竹文庫春季展」 3/8～6/5								
毎月、第1日曜日 あぐら茶会(1月、10月は休み) 不定期 文化教室茶会															
松任ふるさと館 276-5614							9/18観月コンサート 9/18-19「月見夜灯」 9/19観月茶会				2/5雪見茶会 2/4～3/6雛人形展				
鳥越一向一揆歴史館 254-8020			企画展「加賀内乱～享禄の錯乱」(仮称) 7/24～9/20				企画展示「石川中央都市圏考古資料展」 10/22～11/21						◆歴史セミナー		

※各館のイベント等は白山ミュージアムポータルサイト <http://www.hakusan-museum.jp/> で紹介しています。日程等が変更になる場合があります。詳細については各館までお問い合わせください。

白山ミュージアム

検索

